

■ 応急救護所設置場所の選定理由

応急救護所の設置場所の選定条件及び各施設の詳細を次の表にまとめた。

<選定条件>

1. 4つの拠点病院（救急告示病院）にある程度近い距離にあること。
2. 市内を4つ（東部・中部・西部・南部）のエリアに区分し、ある程度全市的に医療活動が可能な場所であること。
3. 負傷者を搬送してくる市民から分かりやすい（認知度が高い）場所にあること。
4. トリアージを行うための広いスペースが確保可能なこと。
5. 車両が乗り入れることが可能な駐車場や周辺道路があること。
6. 継続して利用可能な公共の施設であること。（3日～1週間）
7. 避難者との混交を避けるための動線が確保可能なこと。

<各施設の詳細>

No.	地区	施設名	住所	施設管理者	最寄りの病院	病院からの距離	トリアージスペース	その他の防災機能	備考
1	東部	第二中学校	実靱 1-44-1	市教育委員会	済生会習志野病院	約 1.6 km	西棟 1F 美術室	避難所	校舎等の老朽化・段差の目立つ敷地
	地域の災害危険性		被害の拡大が大きくなると予測されている「実靱・本大久保・屋敷地区」に医療の必要性が高まる可能性が高い。また、東部地区に災害の拠点となる病院がないため、医療過疎地となる可能性が高い。						
2	中部	保健会館(別館)	津田沼 5-14-24	市健康支援課	習志野第一病院	約 100m	別館 1F	災害医療本部	スペースによる収容人数不足
	地域の災害危険性		住宅密集地であり、また、倒壊の危険性が高い古い建物が多数点在する地区であることから、多くの負傷者が出るのが予測されている。狹隘地区のため、火災発生率が高く、火災による大きな被害が予測されている。						
3	西部	第一中学校	奏の杜 1-13-1	市教育委員会	津田沼中央総合病院 (谷津保健病院)	約 700m (約 1.4 km)	体育館 1F ピロティ	避難所	H25 年度体育館 1F 改修工事(その間はA棟を活用)
	地域の災害危険性		谷津地区は、住宅密集地であり人口も多く、狹隘地区のため火災や建物倒壊による負傷者が多数出ることが予測されている。また、奏の杜に約 7,000 人の人口が増えることから、それに伴う負傷者も増えることが予測される。						
4	南部	第七中学校	香澄 6-1-1	市教育委員会	谷津保健病院 (習志野第一病院)	約 2.9 km (約 2.0 km)	体育館 1F ピロティ	避難所	避難者と負傷者の動線確保を要検討
	地域の災害危険性		地区全域に液化化の危険が高く、建物倒壊の危険性も高い。また、全域で高齢化が進んでおり、医療ニーズが高まることが予測されるが、拠点となる病院から距離があり、橋や京葉道路により医療体制についても孤立する可能性が高い。						

※応急救護所となる3箇所の中学校には、災害発生時に使用する資機材（救急セット・医薬品・医師会無線機器等）を事前に配備する。